



2000円 実用新案登録料

(4000円)

53 7 26

昭和年月日

特許庁長官殿

1. 考案の名称 ディリクテック
エレベーターの出入口装置

2. 考案者 イナツシヒシズ
住 所 愛知県福井市妻町1番地
三菱電機株式会社
三 菱 電 機 株 式 会 社
ムラタ カズマサ
氏 名 村田一正 (外 1名)

3. 實用新案登録出願人 郵便番号 100
住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
名 称 (601)三菱電機株式会社
代表者 進藤貞和

4. 代理人 郵便番号 100
住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
三菱電機株式会社内
氏 名 (6699)弁理士 篠野信一 (外 1名)

5.添付書類の目録 (郵便番号 03(435)6095特許部)
 (1) 明細 (1) 1通
 (2) 図面 (2) 1通
 (3) 专利 (3) 小説 1通

53 102513

55-20358

明細書

1. 考案の名称

エレベータの出入口装置

2. 實用新案登録請求の範囲

かごの乗場対向側部に設けられて當時は一面が上記かごの敷居面と同位置に配置されて後退位置に配置され要時に回動変位して前進し上記かごと乗場の隙間を縮小しかつ他面が上記敷居面と同位置に配置される補助敷居と、上記補助敷居を前進位置へ駆動する駆動装置とを備えたエレベータの出入口装置。

3. 考案の詳細な説明

この考案はエレベータの出入口装置に関するものである。

エレベータのかごが乗場に着床停止したときには、かご、乗場それぞれの出入口床面間には通常 40mm 程度の隙間が形成される。このため車椅子でエレベータに乗降するときに車椅子のキヤスターがかごと乗場の隙間に落ち込み、車椅子の身体障害者にとって不便であり、また、

(1)

55-20358

エレベータの運行も不能になる不具合があつた。このような不具合を防ぐためかごの停止時にかごと乗場の隙間を補助數居により縮小することが提案されているが、装置が複雑であり、動作時に騒音が生じたり装置の損耗、故障が多くなる不具合があつた。

この考案は上記欠点を解消するもので、簡易に構成されてかごと乗場の隙間を縮小する補助數居を備えたエレベータの出入口装置を提供しようとするものである。

以下、第1～第3図によつてこの考案の一実施例を説明する。

図中、(1)はエレベータのかごで、(2)はこれの出入口の數居、(3)は乗場、(4)はかごの戸、(5)はかご(1)の乗場(3)対向線部で、(6)はこれに沿つて設けられた後退部で、(6a)はこれの檻壁、(6b)は底面である。(7)は4角棒材からなる補助數居で、數居(7)の面から下方寄りであつて乗場(3)寄りの長手軸線によりかご(1)に框縫されて後退部(6)に配置され、また、外面の1面(7a)は數居(7)の面



に一致して配置され、この 1 面 (7a) に接続した
他面 (7b) は後退部 (6) の側壁 (6a) に対面して配置
されている。⑧は側壁 (6a) に設けられたゴム製
の阻止片、⑨は底面 (6b) から突出されて第 2 図
における反時計方向の補助敷居の回動を所定
位置で阻止する阻止体、⑩は補助敷居の端部
に配置されこれに一端が、他端はかご⑪に保持
されたひねりばねからなる付勢体で、補助敷居
⑫を第 2 図において時計方向へ付勢する。⑬は
補助敷居の軸に連結されたロータリーソレノイド等の電気的アクチュエータからなる駆動装置、
⑭は身体障害者運転用の押しボタンからなり
身体障害者用の車椅子の乗降を検出する検出
装置、⑮は身体障害者運転用押しボタン、すな
わち検出装置⑭の呼びに応答したかご⑪が起動
すると消勢される電磁リレーの常閉接点、⑯は
検出リレーで、(14a), (14b) はそれぞれこれ
の常開接点、(+) (-) は電源である。

すなわち、通常の乗客がかご⑪に乗降する場
合には検出装置⑭が操作されないので、補助敷

居の場合は第2図に実線で示す位置、すなわち後退位置に付勢体⑩によつて保持され、このときには補助敷居のと乗場の間には隙間Aが形成される。今、車椅子の使用者が検出装置⑫を押したとすると、(+) - ⑬ - ⑭ - ⑮ - (-)の回路によつて検出リレー⑯が付勢され、接点(14a)が閉成して(+) - (14a) - ⑬ - ⑭ - (-)の回路によつて検出リレー⑯が自己保持される。同時に接点(14b)が閉成され(+) - (14b) - ⑮ - (-)の回路によつて駆動装置⑪が付勢され、これにより補助敷居のが付勢体⑩に抗して第2図において反時計方向へ回動され鉛線で示す状態となり阻止体⑨に当接して停止して前進位置に保持される。この状態では補助敷居のの他面(7b)が敷居の面と一致するとともに隙間AがBに縮小される。このため、車椅子はかご⑪に対して支障なく安全に乗降できる。そして、かご⑪が起動すると、接点⑬が開放されるので検出リレー⑯が消勢され、これによつて接点(14a), (14b)が開放されて駆動装置⑪が消勢される。したがつて、付勢体

◎を介して補助數居のは第2図の実線の位置に復帰する。このように補助數居のが回動することにより前進するので、直線運動により前進するものに比べて動作を円滑かつ静粛化することができ、装置の損耗を少なくすることができ故障の発生を防止することができる。

なお、この実施例では検出装置が作動したときのみに補助數居のが前進して隙間Aが縮小されるので、補助數居のが無用に動作することなく、この動作のための装置の寿命の低下を防ぐことができ、また、保守作業を簡易化することができる。

以上説明したとおりこの考案は、補助數居を回動変位させてかどと乗場の隙間を縮小するようにして、この動作を円滑かつ静粙化することができ、また簡易な装置構成によつて安価で故障が少なく、車椅子に対して安全なエレベータの出入口装置を実現するものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案によるエレベータの出入口



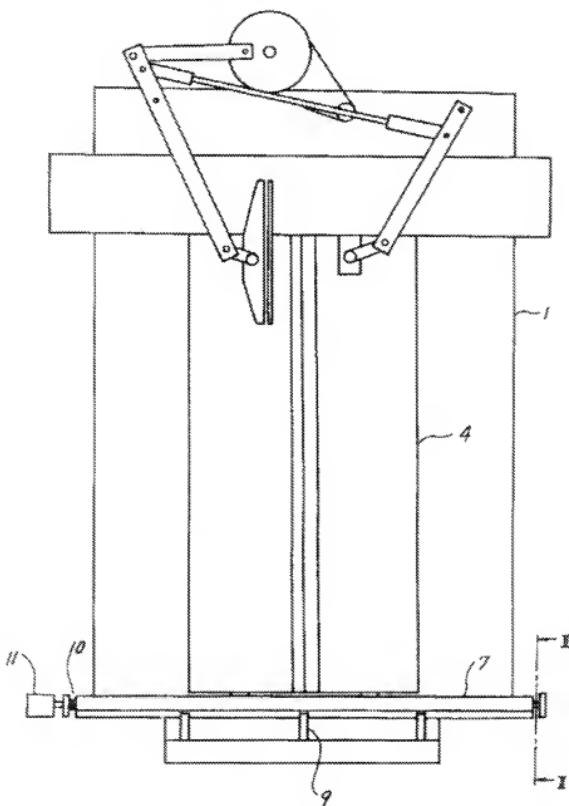
装置の一実施例を示す図でエレベータかごの正面図、第2図は第1図のI—I線断面図、第3図は第1図に対応した要部電気回路図である。

(1)…かご、(2)…敷居、(3)…乗場、(4)…級部、
(5)…補助敷居、(6)…駆動装置

なお、図中同一部分は同一符号により示す。

代理人弁理士葛野信一

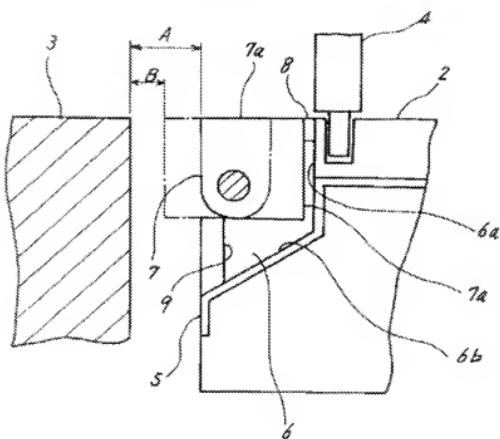
第1図



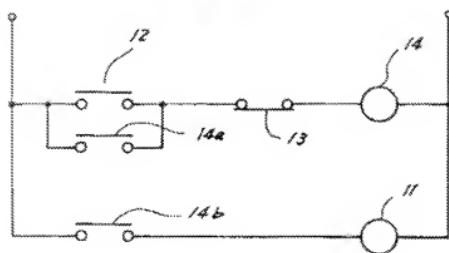
20358 1/2

代撰人 真野信一

第2図



第3図



20358 2/2

八十八 異封信一

6. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人

考案者

代 理 人 郵便番号 100
住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
三菱電機株式会社内
氏 名(7375)弁理士 大 岩 増 



特許庁
出願用紙

55-20358